

愛光園に係る高齢者の人生経験や人生を生き抜く知恵といった大切な財産を地域に発信して、教育やコミュニティづくりに活かす

利用者の豊かな経験に基づいたお話しの中にある“お宝”を、地域の方々に情報発信できないかと考えたことが始まりである。テーマが明確な戦争体験を若い世代に語っていただくこととし、地元の中学の全校生徒を対象に話をしていただいた。三世帯世帯が多くを占める地域にあって、戦争体験を祖父母から聞いたことがない、という生徒も多かった。これをきっかけに、祖父母に戦争体験を聞いてみた、という生徒も出てきている。貴重な経験を語り継いでいくという糸口が、地域の中で生まれつつある。

社会福祉法人 **聖隷福祉事業団** 〒431-2207 静岡県浜松市北区引佐町東黒田37-2
TEL: 053-544-0781 / FAX: 053-544-0888

◆ 法人の概要

法人設立年：昭和5年
経営施設、事業（数）：84施設

◆ 法人の理念・経営方針

キリスト教精神に基づく「隣人愛」～自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい～
聖隷福祉事業団職員「聖隷人」の使命

- いのちと尊厳のために
わたしたちは、ひとりひとりのいのちと個人の尊厳を守ることを、第一とします。
- 利用される人々のために
わたしたちは、サービスを求めるすべての人々に、誠実かつ献身的に伝え、その自立を支援します。
- 地域社会とともに
わたしたちは、保健・医療・福祉・介護サービスを通して社会に貢献し、地域の人々との強い絆を育みます。
- 未来を築く
わたしたちは、創立以来の先駆的・開拓的精神を受け継ぎ、常に新しい課題に挑戦します。
- 最高のものを
わたしたちは、ひとりひとりが専門職としての倫理と誇りをもち、謙虚な姿勢で最善を尽くします。

◆ 実施施設の概要

施設名：いなさ愛光園
施設種別：特別養護老人ホーム
70名
活動開始年：平成18年11月
活動の頻度・時間：平成18年11月26日、12月10日、平成19年1月28日、2月4日、2月20日の5日間のそれぞれ2時間程度
活動の対象者：地元の中学校（浜松市立引佐北部中学校）の全校生徒

活動実施の背景、実施にいたった理由

最近あまり使われなくなった“年寄り”という言葉自体は良い意味だと思う。江戸時代には老中に次ぐ役職名であり、“年＝人生経験”を“寄る＝重ねる”といった意味で、高齢者を積極的に評価する言葉のように思える。その評価とは、経験を重ねるなかで醸造される“人生を生き抜く知恵”に対するものだと思う。普段ご利用者と接していると、話しの端々からこのような“お宝”を得ることができる。こんな“お宝”を職員だけで聞いているのはもったいない、地域の方々に情報発信できないものかと考えたなかで、テーマが明確な戦争体験を若い世代に語っていただくのはどうかと考えた。全国が焦土となった戦争と、長い日本の歴史上初めての占領という厳しい時代を経て今の日本があることは、戦後生まれが75%を超え、戦争が過去のものとなりつつある今こそ語り継いでいかなければいけないと考えた。

実施内容

地域の中学の浜松市立引佐北部中学校に提案したところ、生命尊重を学ぶ道徳学習として全校生徒を対象に5回の授業を組んでいただいた。熱意ある対応に少し驚きつつ戦争体験の語り部を探しましたが、これは思ったよりも大変であった。もう二度とあんなつらいことは思い出したくないと言う方が多く、戦争の傷の深さをあらためて思いしらされたが、なんとか4人の方に体験をお話しいただくことになった。第1回目の全校道徳授業は体育館で戦争アニメの“ガラスのうさぎ”を鑑賞した。第2回は、聖隷福祉事業団奄美佳南園初代園長の雨宮恵氏が体験された予科練と特攻隊についてお話をいただいた。第3回はご家族の方から軍需工場での勤労奉仕生活と空襲について、デイサービスご利用者からは中国での従軍体験、愛光園元職員からは幼少期の満州引揚体験と戦後の食糧難を語っていただいた。第4回は学校に帰って感想文作成。第5回はグループワークで感想を話し合い、語り部の方々の前でグループ代表がまとめを発表した。

